組み合わせて
語る

プリントにある11種類のデータから

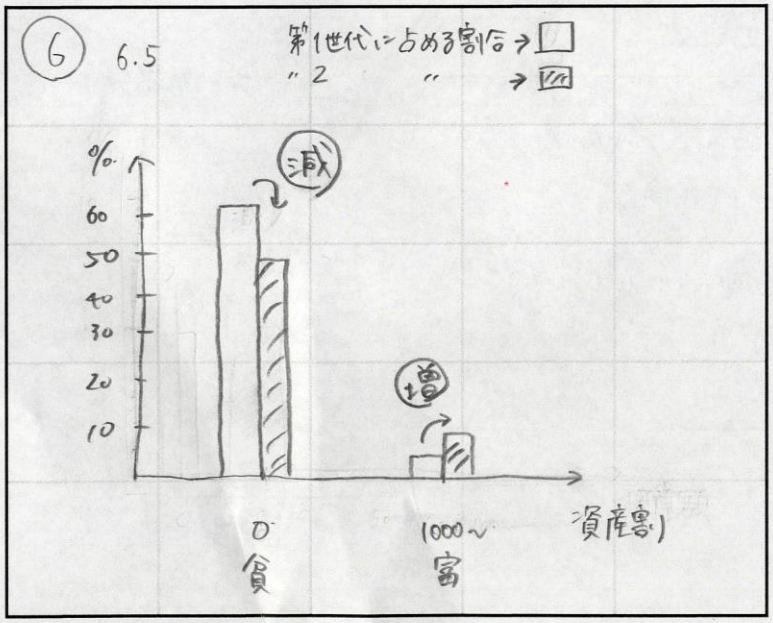
2つ選んでグラフ化し、

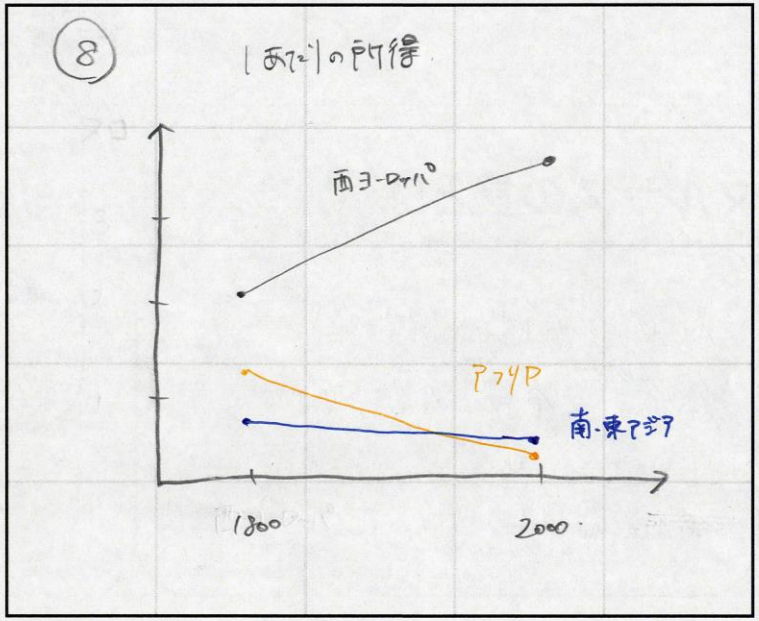
何らかの推論を導き出してください。

組み合わせ達人　10名様

国内→国際視点の融合

TITLE: 社会間の貧富の差の広がり



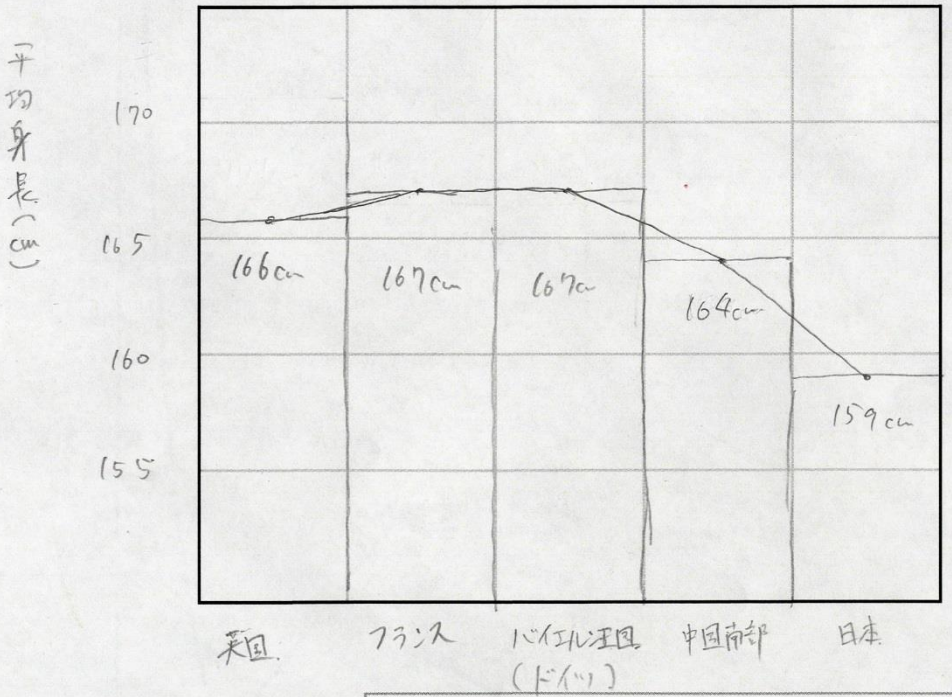


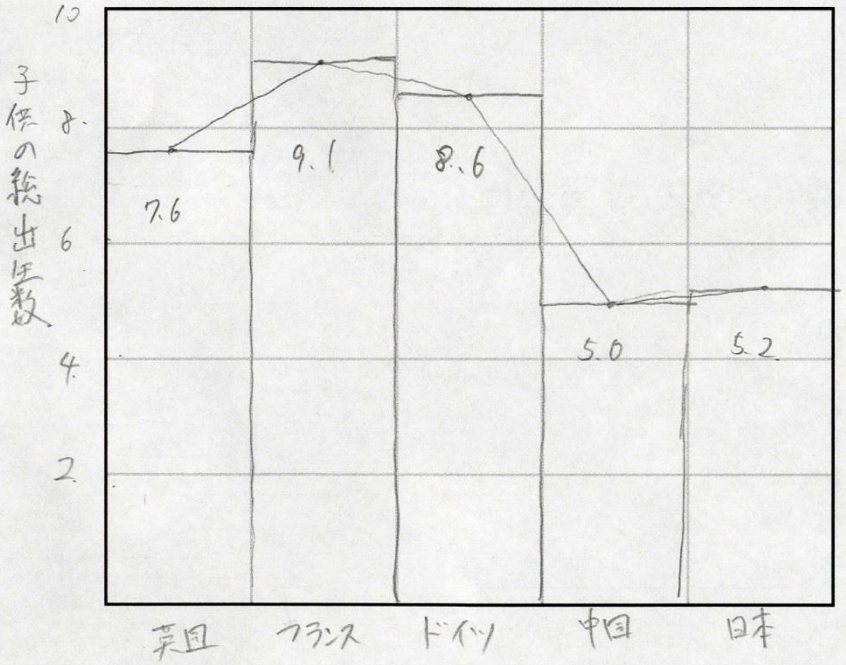
これらを組み合わせて言えることは・・・

⑥から強者は増え、弱者は減ることが傾向でわかり、それがその社会のなかで広まると、国どうしのなかでも、強者が多くいる国は、みんな強者になりたがり、国全体の所得水準が上がる。逆に、弱者が多くいる国は、負のスパイラルにはまる。

きれいに対比した

TITLE: 平均身長と子供の総出生数の関係.





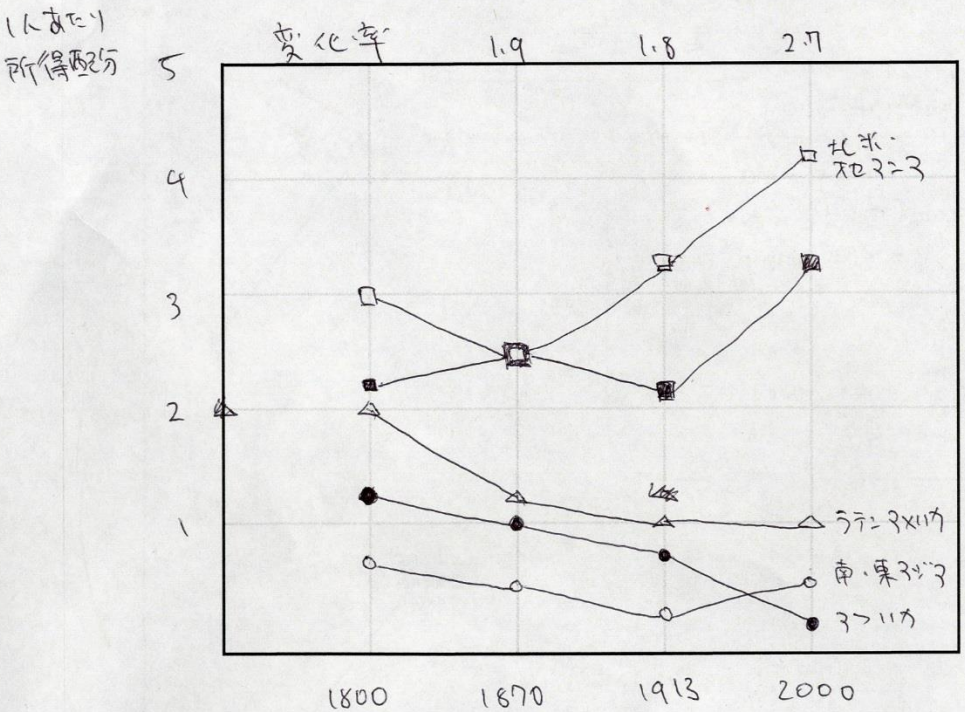
これらを組み合わせて言えることは・・・

グラフから平均身長と子供の総出生数には正の相関があることが分かる.
平均身長は一般に栄養状態を表す指標であるから、栄養状態を良く保てる
富裕層の方がやはり子供の出生数は多い.

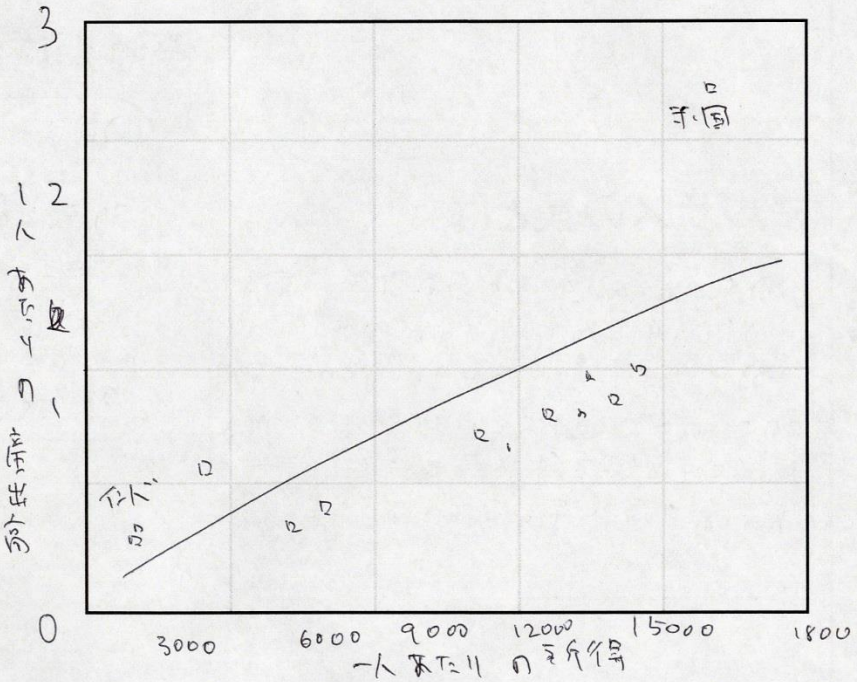
現代版マルサス均衡

TITLE: 経済成長の独占

⑧



⑨



これらを組み合わせて言えることは・・・ 一人あたりの所得配分をグラフすると 1) 近年その変化率は増加している 2) その大半は先進国の上昇によるものである 3) 貧困国は低下、そして変化していないことが分かる。これと産出高に関するデータを組みあわせることによって近年の GDP 増加(パイの増加)は先進国の生活水準増加によって吸収され、現代版マルサス的均衡が発生していることがわかる。

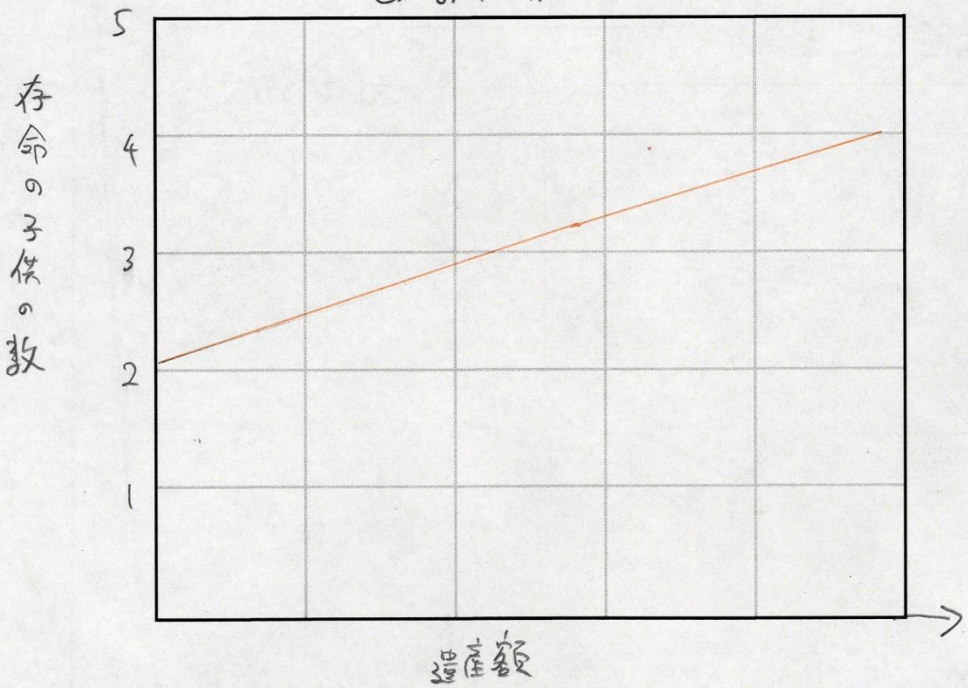
少子の理由を推定

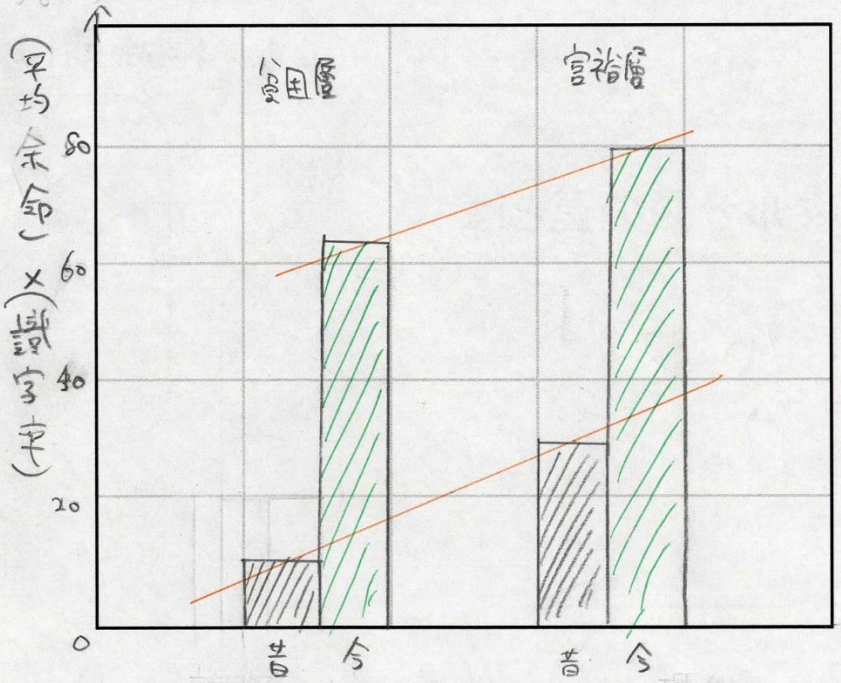
TITLE: 貧困層と富裕層の差

33.15

4.4

⑤のグラフ



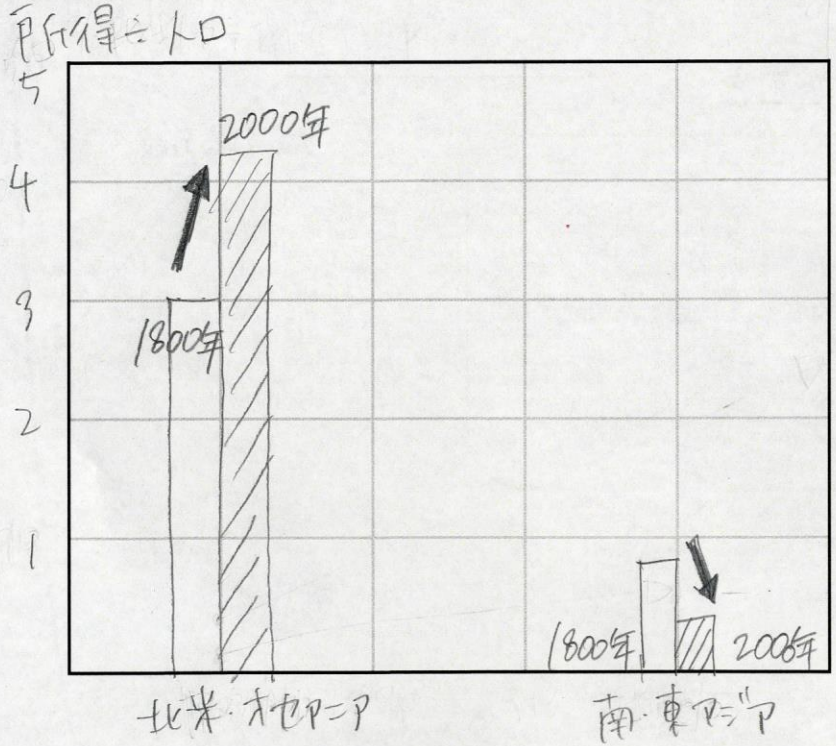


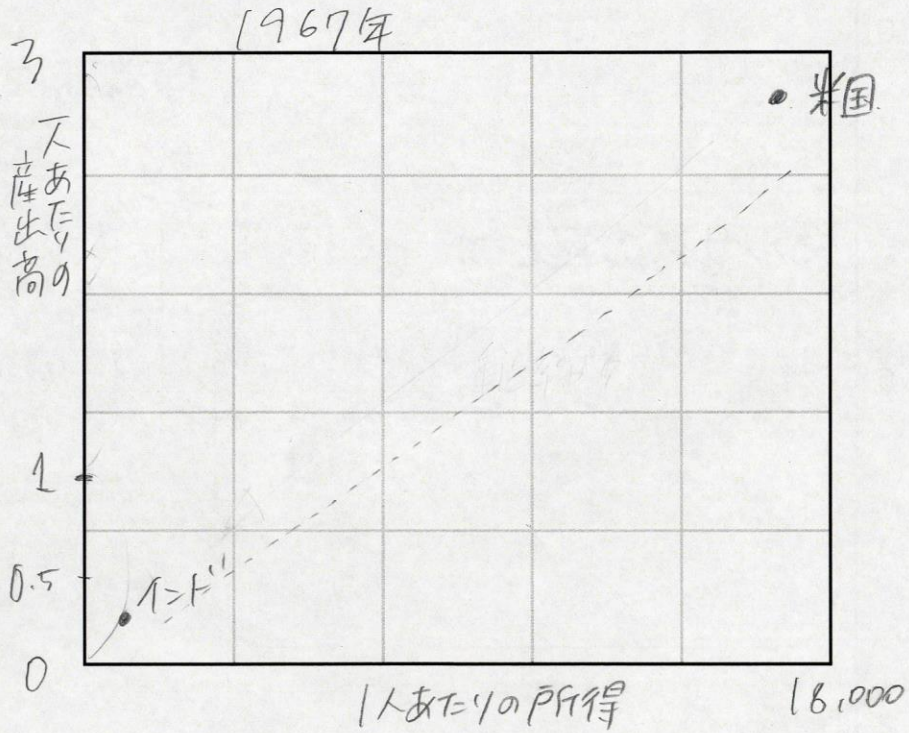
これらを組み合わせて言えることは・・・

富裕層に比べ、貧困層は、平均余命が短く、識字率が低いことで
遺産額が少なくなり、子供の数が少ない要因となる

生産効率に着目

TITLE: 産業革命後の分岐の原因





これらを組み合わせて言えることは・・・

能率が悪いと人手が必要になり1人あたりの所得が減る

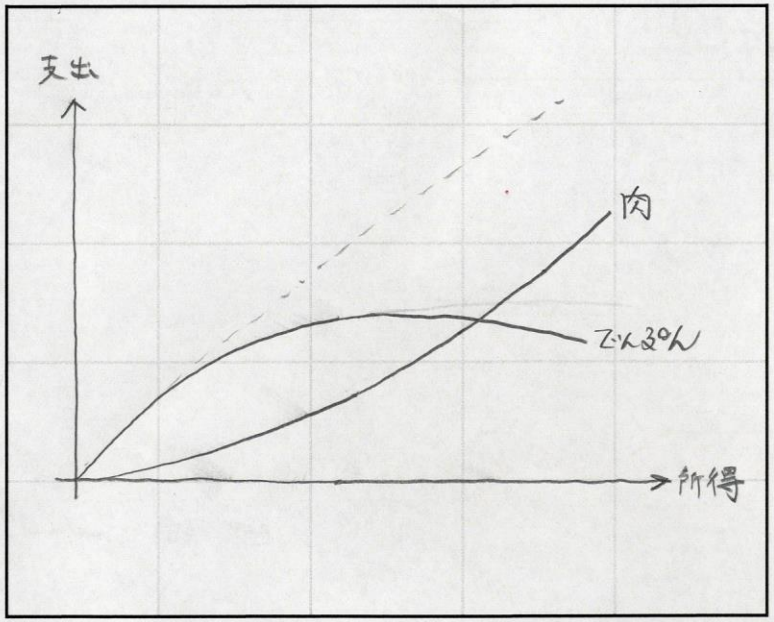
産業革命を自然に受け入れられた地域とそうでない地域では

生産効率に差が生じるので結果的に格差が拡大してしまった

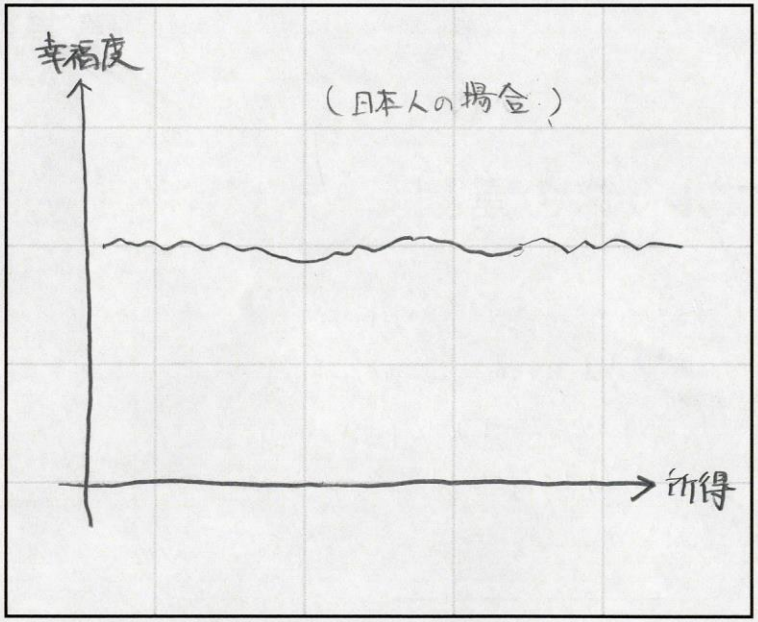
主張が明確

TITLE: 幸福を食に求める！

②



①

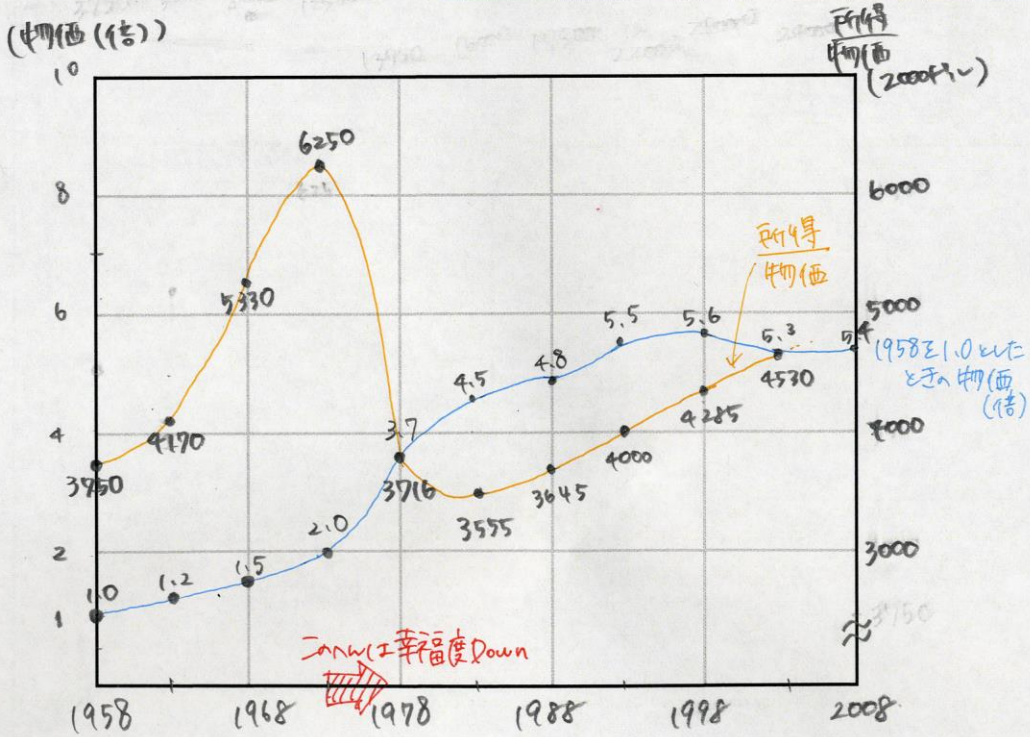


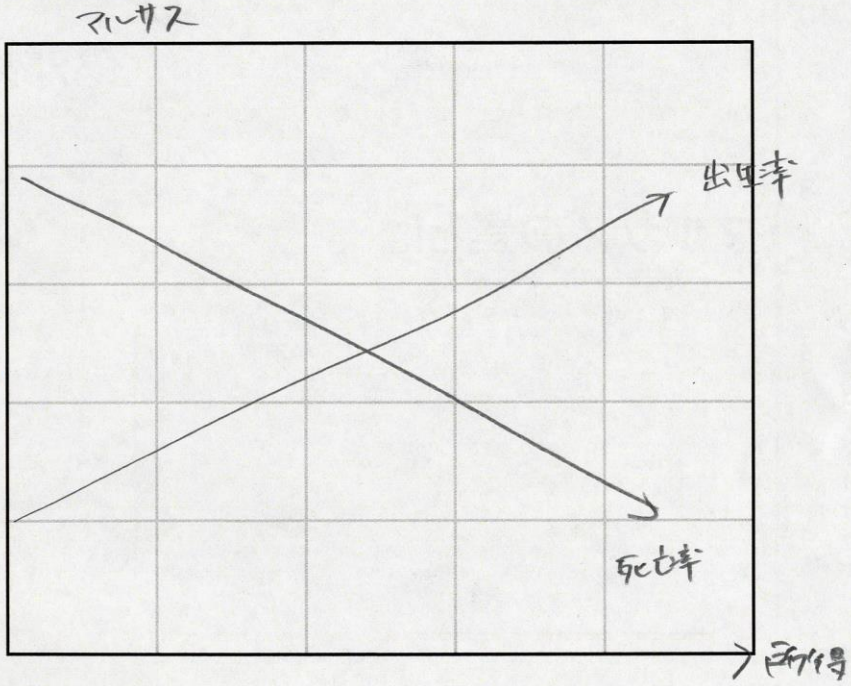
これらを組み合わせて言えることは・・・

所得が上がると食の質は上がるのに幸福度は上がりない。（日本人）
つまり日本人はたいして「食べること」で幸福度を上げることができない。
おいしいものを食べて生活の質を上げる考え方は、必要だと思う。
（僕は肉を食べると幸せになります）

他からのデータではありますが・・・

TITLE: 所得と子供





$\frac{1.8}{1.5}$

これらを組み合わせて言えることは・・・

ものを買える量が増える⇒裕福⇒子供がふえる。(出生率↑)

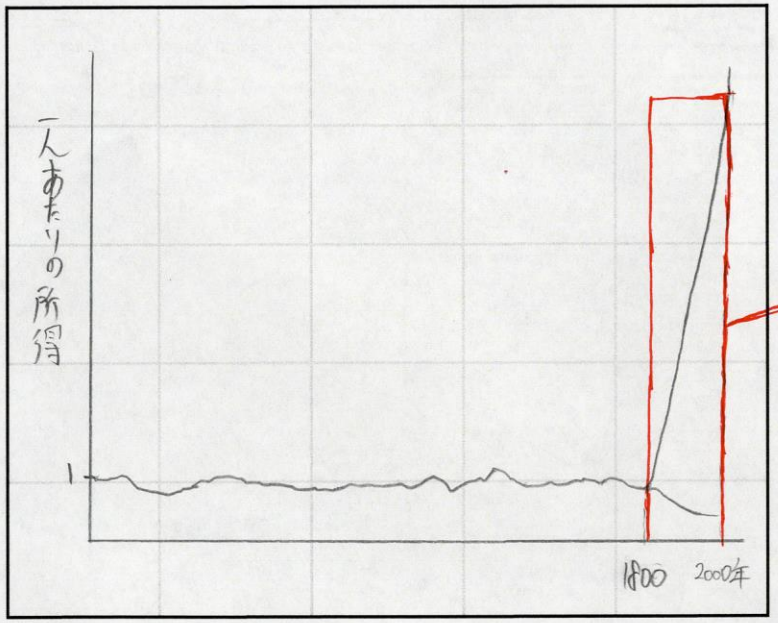
しかし、子供が増えると、育てるのは大変。

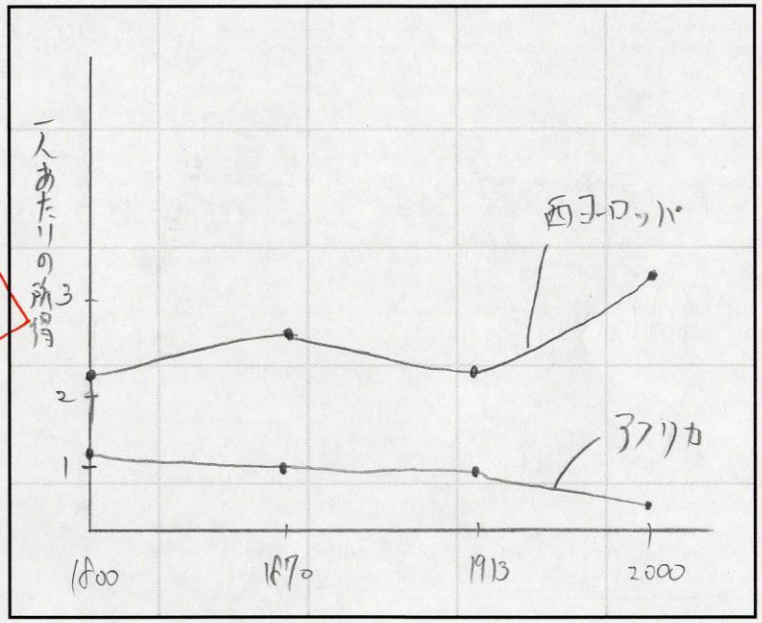
1958→1968で子供が増えて大変になった?

以下、山室的ベスト3です。
それぞれに優れているので、
順位は付けません。

講義の矛盾を発見！

TITLE: 所得格差を拡大してみてみる





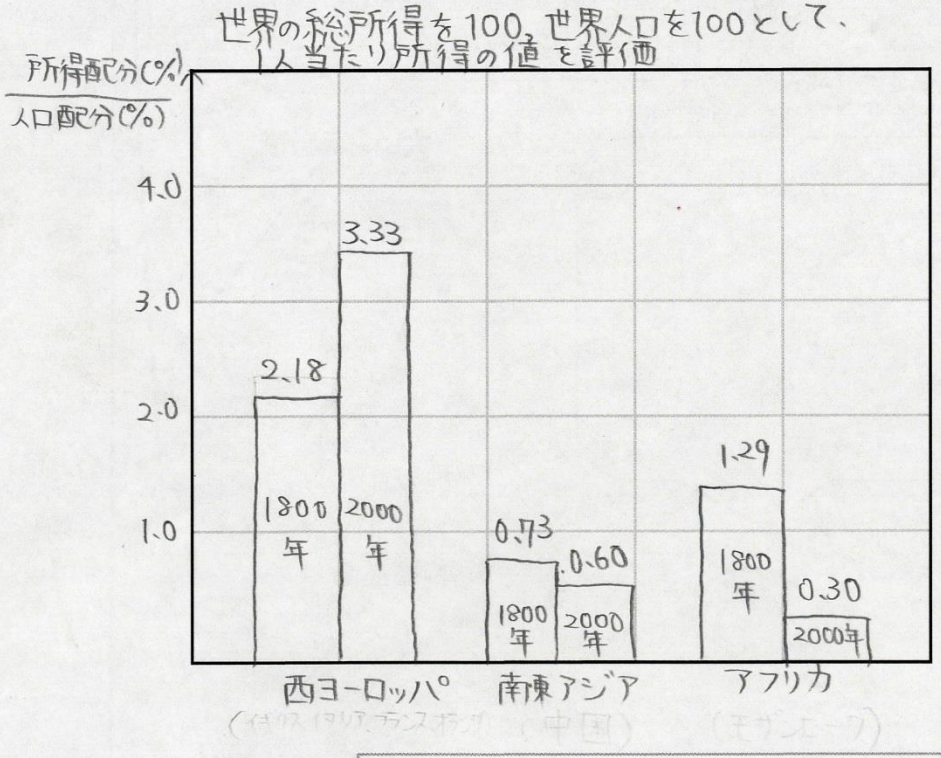
これらを組み合わせて言えることは・・・

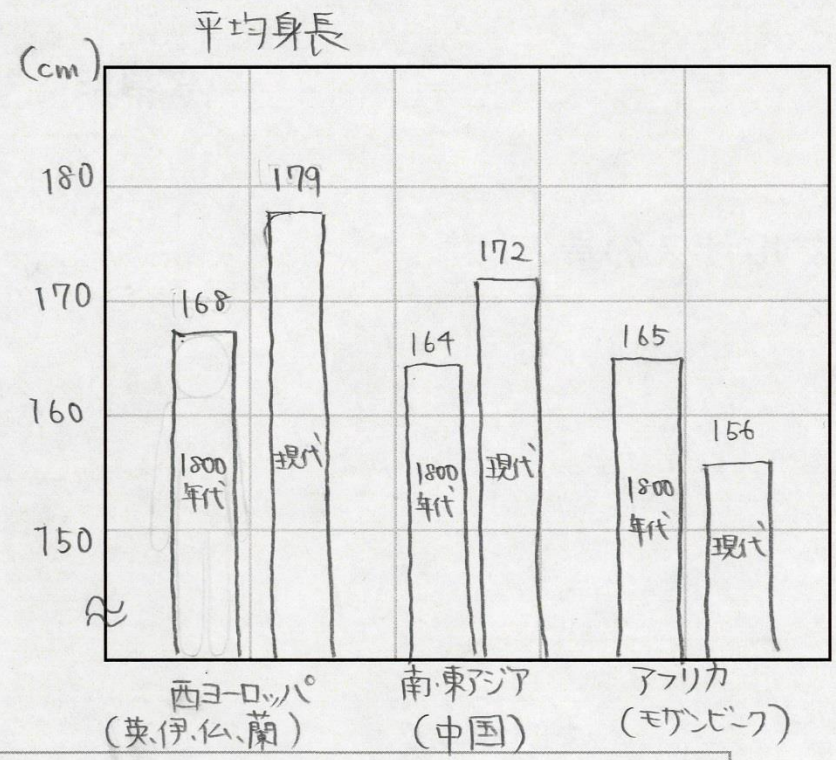
拡大して見てみるとヨーロッパとアフリカの格差が広がったのは1913年以降と分かる。
産業革命だけが原因ではないのでは??

緻密な計算の成果

TITLE: 1人当たり所得と平均身長

表③,⑧ +α





これらを組み合わせて言えることは・・・

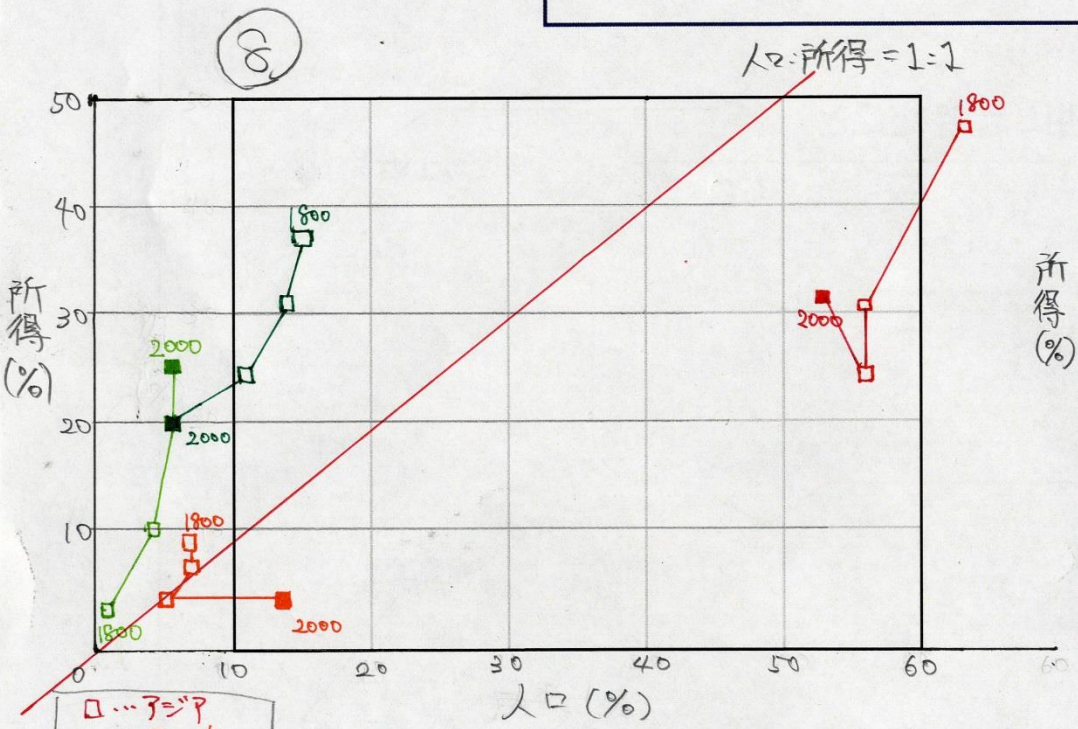
1人当たり所得(多) → 身長(高)

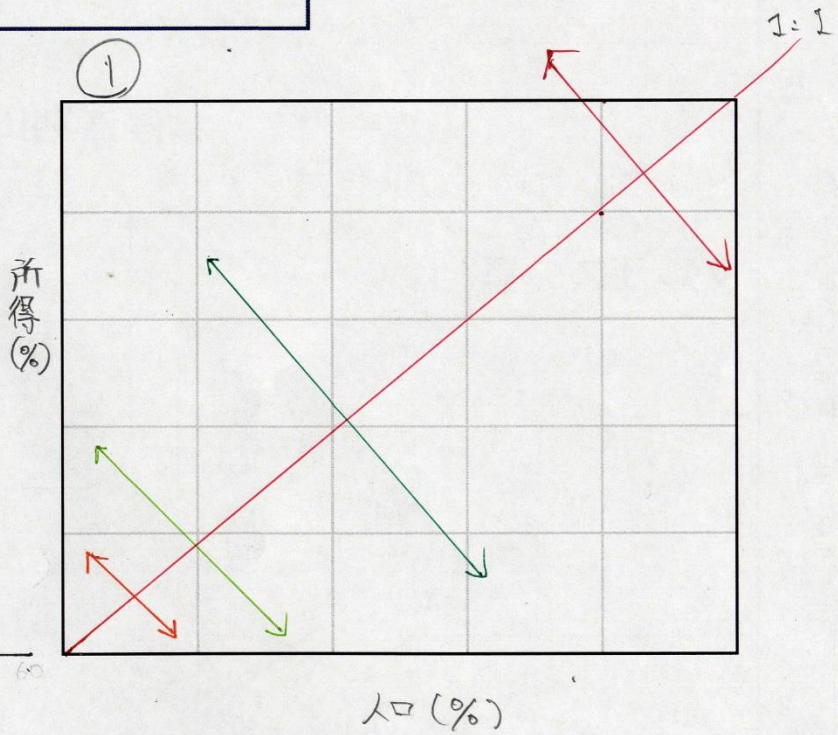
現代は所得も身長も地域差が大きくなっている

モザンビークでは平均身長が下がった。

鍵は　1:1直線！

TITLE: 新・マルサスの罠





これらを組み合わせて言えることは・・・

マルサスの考えに従えば、人口と所得は反比例し、1:1直線をまたぐはずである。(グラフ①)

しかし、各国の時系列データに基づくと、1:1直線をまたいだのはアフリカだけで、

一部の国では、直線から遠ざかる傾向にある。現代の社会では マルサスの罠よりも、格差の拡大の

力のほうが強くはたらいている。